

令和6年度 板橋区立美術館運営協議会 会議概要

| | |
|---------------|---|
| 開催日時 | 令和6年11月20日(水) 13時30分から15時 |
| 開催場所 | 板橋区立美術館講義室 |
| 出席者 | 18人 【委員】岡野委員、貝塚委員、岸委員、佐藤委員、返町委員、降旗委員、前山委員、安村委員 【区職員】坂本区長、平岩区民文化部長、小林文化・国際交流課長、松岡美術館長、久保田副館長、弘中学芸員、植松学芸員、印田学芸員、高木学芸員、村内学芸員 |
| 会議の公開 (傍聴) | 公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる) <u>非公開(傍聴できない)</u> |
| 傍聴者数 | 0人 |
| 議題 | 1 報告事項 令和5年度 事務実績報告 2 審議事項 ① 令和7年度 展覧会展示計画及び概要 ② 令和7年度 展覧会内容 ③ 令和7年度 教育普及事業計画 ④ 令和7年度 利用料改定について |
| 配付資料 | ① 令和6年度「板橋区立美術館運営協議会」次第 ② 令和6年度「板橋区立美術館運営協議会」委員名簿 ③ 令和5年度 事務実績(総括) ④ 令和5年度 美術館展覧会観覧者数 ⑤ 講座等実績 ⑥ 令和7年度 年間展示計画 ⑦ 展覧会概要 ⑧ 令和7年度 教育普及事業計画 ⑨ 令和7年度 使用料・手数料改定について |

| | |
|-------------------|---|
| 所 管 課 | 区民文化部 文化・国際交流課 美術館 3979-3251 |
| 議 事 状 況 (会議概要) | <p>(司会：小林文化・国際交流課長)</p> <p>【区長挨拶】</p> <p>【委員委嘱】</p> <p>【会長互選】</p> <p>※出席委員の推薦及び総意により、退町委員に会長をお願いすることとなった。また、会長の職務代理には退町会長の指名により安村委員をお願いすることとなった。以下会長を進行役とし議事進行した。</p> <p>退町会長（以下、会長）：それでは、改めて議事に入らせていただく。</p> <p>【報告及び審議事項】</p> <p>(松岡館長が資料（資3から資5）に基づき「令和5年度事務実績」について説明、館長、各担当学芸員及び副館長が資料（資6から資9）に沿って展覧会、教育普及事業及び利用料改定の内容を説明)</p> <p>●質疑</p> <p>(来館者数について)</p> <p>委員：コロナ後、来館者数は元に戻ったか。</p> <p>館長：来館者数は展覧会にもよるため一概には言えないが、戻っていると感じる。コロナ期間は、電車等に乗らずに行ける場所を求める方が増えたということもあり、それほど大幅には減らなかった。</p> <p>(外国人の来館について)</p> <p>委員：交通の便が悪い場所だが、外国の方はどうやって来館しているのか。</p> <p>館長：多くの方がインターネット等で調べ、近隣の観光と合わせて来館されている。ポローニャ展を目指してきたという方も多い。特に韓国・台湾の方が多い。</p> <p>(展覧会名について)</p> <p>委員：(令和7年度の展示計画について) 展覧会名はもう決まっているのだろうが、近世絵画と油絵でタイトルの付け方に差がある。油絵の方は展覧会名から内容がわかりやすいが、近世絵画の方は一般の人には内容がイメージしにくいので検討の余地があれば一考を。</p> <p>また、焼き絵は地味で一般の人にはわかりにくい。画像として面白いが。一般の人に「おや？」と思わせるようなキャッチフレーズを工夫する必要がある。</p> <p>(展覧会について)</p> <p>委員：区立美術館の良さは、大きな美術館と違いテーマを絞って「学芸員の顔が見える」展覧会ができるということ。それぞれの担当者がなぜその展覧会をやりたいと</p> |

思ったのかということを経覧会の中で表現できるといいと思う。それによって担当者の顔が見え、板橋区立美術館らしさをアピールできると思う。

(夏季の来館者数について)

委員：夏の暑い時期、来館者は減ったか。

館長：近年は、「命の危険があるため、外出は控えるように」と広く言われていることもあり、特に高齢者の来館が減る傾向にある。

委員：9時30分から17時は一番暑い時間帯だと思う。難しいとは思いますが早朝（5時等）から開館してほしいと個人的に思うし、そういう時代がくるかもしれないと感じる。

(アクセシビリティについて)

委員：昨年度、視覚障がい者の方向けの触察パネルがあり、よく考えられたキャプションが添えられていた。それが素晴らしいと思って、その分野に興味のある方が来館したりした。今年のポローニャ展でもあったのか？現在のレオーニ展ではそういう展示はなかった。予算や来館者数等の関係で難しいのかもしれないが、今年障害者差別禁止法が改正されて、美術館でもそのような活動が行われることが望ましいとされる中、すでにポローニャ展で作成したコレクションを持っているという土壌もあるので、そのような企画を行ってほしい。

館長：ポローニャ展に出品されたイラストを、木製の触れるパネルにし、触り方やポイントについて点字と墨字でキャプションにしたものと合わせて去年展示した。

もともと2020年のパラリンピック開催にあわせて何かできないか考えていたところ、イタリアで進んでいる触察文化と出会い、そこから触ってみる絵本を集めたり、ワークショップを開催したり、ポローニャ展の中でも何点かの作品を触察ボードにして展示するというのを始めた。

この時は特別予算が組めたので、絵本を買ったり、点字をつける作業を依頼したり、ボードを作ったりすることができた。その後は特別予算がついていない。やりくりの中で昨年は5点ほどボードを作った。今年は1月の地震によって七尾美術館で巡回展が開催できなくなり、負担が増えたことやユーロ高騰が重なり財政的に作成が困難だった。

しかし、違う形で動き出していることはある。触る絵本を作っているイタリアの機関があるので、その人を招いてワークショップを実施した。その参加者たちから日本でもさわり絵本を作りたい、という要望があり、美術館と彼らと月1回程度研究会を開催し、作家が本を作ったり、美術館で3月にシンポジウムをやろうという計画もある。

今後、美術館の展覧会、運営そのものの中でもアクセシビリティということに関してもっと考えていかなければいけないと認識はしている。スペースがない等問題はあるがどんどん技術は進化している。新しく生み出された技術も使いつつ、外部の協力者ともコラボしながらアクセシビリティへの意識を持っていこうと思っている。

(学校向けプログラムについて)

委員：学校向けプログラムについて、何か考えていることがあれば聞きたい。

館長：23区内でも、区立美術館があるところは少数。地元には美術館があることは貴重であり、ぜひ来てもらいたいと考えている。年度初めには図工の先生・校長先生宛に展覧会予定や鑑賞教室についてPRしている。また予算の範囲ではあるが、バスの手配もしている。

コロナ期間に始めたものとしては、オンラインでの鑑賞教室があるが、問題は多い。一度に数十人の生徒を相手にすることや、直接生徒たちの声を聴くことができないという難しさがある。また、常設展がなく、1か月程度で展示が変わってしまうため、展覧会に合わせた教材づくりも難しい。

ただ、収蔵品の複製品を作って貸し出したり、イラスト入りの冊子を作って当館の収蔵作品を紹介する等している。学校連携はこれからのテーマであるが、教育普及担当学芸員がいないことがネックとなっている。

委員：「絵本のまち」事業を推進するためにも、未就学児への教育普及に力を入れてもらいたい。

(手数料改定について)

委員：国や自治体が決めることで、1施設で何かができるものではないので、受け入れざるを得ないと思う。ただ、料金改定に合わせてキャッシュレス決済の導入をすることはできないか。

館長：来年度導入に向け準備している。

会長：これで令和6年度板橋区立美術館運営協議会を終了する。

[閉 会]

会議の概要は、以上のとおりである。

令和6年度板橋区立美術館運営協議会次第

日時：令和6年11月20日（木）

午後1時30分

場所：板橋区立美術館講義室

- 1 開 会 司会：文化・国際交流課長
- 2 区長挨拶
- 3 委 嘱 式
- 4 新規委員紹介
- 5 会長互選及び職務代理指名
- 6 会長及び職務代理挨拶
- 7 議 事
 - (1) 報告事項 (美術館長)
 - 令和5年度事務実績報告
 - (2) 審議 (美術館長)
 - ①令和7年度展覧会展示計画及び概要 (美術館長)
 - ②令和7年度展覧会内容 (各担当学芸員)
 - ③令和7年度教育普及事業計画 (美術館長)
 - ④令和7年度利用料改定について (美術館副館長)
 - (3) その他
- 8 閉 会

令和6年度「板橋区立美術館運営協議会」委員名簿

(五十音順)

| 氏名 | 現職等 | 専門分野 |
|--------|----------------------------|------|
| 岡野 晃子 | キュレーター・映画監督 | 教育普及 |
| 貝塚 健 | 千葉県立美術館館長 | 近代美術 |
| 岸 ユキ | 画家・女優 | 現代美術 |
| 佐藤 道信 | 東京藝術大学美術学部名誉教授 | 近代美術 |
| 返町 勝治 | 板橋区美術家連盟代表 | 美術家 |
| 成澤 勝嗣 | 早稲田大学文学学術院教授 | 古美術 |
| 降旗 千賀子 | フリーランスキュレーター 東京藝術大学客員教授 | 教育普及 |
| 前山 裕司 | 新潟市美術館特任館長 | 西洋美術 |
| 安村 敏信 | (一財)北斎館館長 静嘉堂文庫美術館館長 | 古美術 |
| 山崎 洋子 | 元カフェボローニャ代表 | 地域文化 |

任期:令和5年11月1日～令和7年10月31日

令和5年度事務実績（総括）

1. 展覧会観覧者数

| 5年度 | | 4年度 | | 3年度 | | 2年度 | |
|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|
| 9本 | 42,809 | 9本 | 34,932 | 9本 | 31,656 | 6本 | 30,159 |

2. 教育普及事業参加者数

(1) 展覧会にかかる講演会・イベント等

| 5年度 | | 4年度 | 3年度 | 2年度 |
|------|-----|-----|-----|-----|
| 講演会 | 499 | 156 | 33 | — |
| イベント | 389 | 521 | 149 | — |
| 計 | 888 | 677 | 182 | 0 |

(2) 各種技法講座・教室・各アトリエ

*印は美術鑑賞教室を再掲

| 5年度 | | 4年度 | | 3年度 | | 2年度 | |
|-----|-------|-----|-------|-----|-----|-----|---|
| 34回 | 1,989 | 30回 | 1,424 | 11回 | 726 | 1回 | 8 |

*幼保4園・小12校・中3校24回1,543人

*保2園・小7校・小6校8回 697人
*中2校19回1,038人

*なし
*オンラインワークショップを実施

3. 自主サークル支援事業参加者数

| 5年度 | | 4年度 | 3年度 | 2年度 |
|------|-----|-----|-----|-----|
| アトリエ | 172 | 301 | 260 | 293 |
| 講義室 | 30 | 50 | 0 | 0 |
| 計 | 202 | 351 | 260 | 293 |

4. 入館者数合計(1+2+3) (重複のため小学校鑑賞教室を除く)

| 5年度 | 4年度 | 3年度 | 2年度 |
|--------|--------|--------|--------|
| 44,345 | 36,346 | 32,127 | 30,460 |

区人口 11月1日 579,128 8%

令和5年度 美術館展覧会観覧者数

| 展覧会名 | 期 間 | 開館日数 | 観覧者数 | 内 訳 | | | | | うち招待免除 | 1日平均 | 観覧料 |
|--------------------------------|-----------------------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|--------|------|-----|
| | | | | 幼児 | 小・中 | 高・大 | 一般 | 高齢 | | | |
| 椿椿山展 | 4月1日 から 4月16日 | 14 日 | 3,622 | 15 | 22 | 82 | 2,101 | 1,402 | 515 | 259 | 有料 |
| 生誕110年佐藤太清展 水の心象 | 4月29日 から 6月4日 | 32 日 | 2,907 | 31 | 61 | 57 | 1,910 | 848 | / | 91 | 無料 |
| 2023 イタリアボローニャ 国際絵本原画展 | 6月24日 から 8月13日 | 44 日 | 8,194 | 479 | 978 | 459 | 5,435 | 843 | 2,648 | 186 | 有料 |
| 館蔵品展(古美術) 「狩野派以外学習帳」 | 8月26日 から 10月1日 | 32 日 | 2,578 | 59 | 193 | 148 | 1,492 | 686 | / | 81 | 無料 |
| 「区民文化祭」 | 10月12日 から 11月5日 | 19 日 | 3,497 | 117 | 488 | 153 | 1,216 | 1,523 | / | 184 | 無料 |
| 館蔵品展(近現代) 「展覧会のちよつと いい話」 | 11月18日 から 1月8日 | 40 日 | 3,305 | 149 | 638 | 112 | 1,705 | 701 | / | 83 | 無料 |
| 「区立小・中学校 作品展」 | 1月16日 から 2月18日 | 28 日 | 9,544 | 510 | 3,029 | 120 | 4,570 | 1,315 | / | / | 無料 |
| 佐藤太清記念 中学生絵画展 | 2月8日 から 2月11日 | 4 日 | 269 | 4 | 46 | 11 | 153 | 55 | / | 67 | 無料 |
| シュルレアリスムと日本 | 3月2日 から 3月31日 | 26 日 | 8,893 | 61 | 343 | 640 | 6,365 | 1,484 | 903 | 342 | 有料 |
| | / | 239 日 | 42,809 | 1,425 | 5,798 | 1,782 | 24,947 | 8,857 | 4,066 | 179 | / |

令和5年度 教育普及事業実績

1 講演会

| No. | 実施月日 | テーマ及び講師 | 参加人員 | 展覧会名 |
|-----|--------|--|------|---------------------------|
| 1 | 6月25日 | 講演会「触って視るポローニャ展—木製触察パネルの制作」 森泉文美(ポローニャ展コーディネーター) | 29 | 2023イタリア・ポローニャ 国際絵本原画展 |
| 2 | 7月2日 | 講演会「だれにでも読める さわる絵本」 ピエトロ・ヴェッキアレツリ(イタリア全国視覚障がい者支援施設 連盟) | 46 | |
| 3 | 7月15日 | 講演会「映画『手でふれている世界』から知る美術館におけるア クセシビリティの歴史と現在」 岡野晃子(キュレーター、映画監督) | 32 | |
| 4 | 7月23日 | 講演会「出会うよろこび、ブックフェア！」 オオノ・マユミ(イラストレーター) | 36 | |
| 5 | 9月17日 | 講演会「ぼくの絵本づくり」 シドニー・スミス(絵本作家) | 38 | |
| 6 | 9月26日 | 講演会「絵本づくりの未来形～『旅するわたしたち On the Move』 のつくりかたから～」 ロマナ・ロマネーシン、アンドリー・レシヴ(絵本作家) | 56 | |
| 7 | 11月19日 | 講演会「タラブックスの最新の絵本づくり」 ギーター・ウォルフ(タラブックス代表) | 58 | 展覧会のちよつといい話 |
| 8 | 11月26日 | 講演会「絵本づくりの未来形～作家に必要なこと—私の経験と意 見と偏見」 ヨシタケシンスケ(絵本作家) | 61 | |
| 9 | 11月29日 | 講演会「エレヌ・ドウルヴェールに聞く」 エレヌ・ドウルヴェール(絵本作家) | 23 | |
| 10 | 3月9日 | 講演会「シュルレアリスムと日本という場所」 速水豊(三重県立美術館長) | 61 | シュルレアリスム展 |
| 11 | 3月30日 | 講演会「シュルレアリスムと池袋モンパルナス」 当館学芸員 | 59 | |
| 合 計 | | | 499 | |

2 イベント

| No. | 実施月日 | イベント内容、テーマ及び講師 | 参加人員 | 展覧会名 |
|-----|-------|---|------------------|---------------------------|
| 1 | 4月8日 | トークイベント「画家と関東のパトロン」 橋本慎司(栃木県立美術館技幹兼学芸課長)、末武さとみ(佐野市立吉澤記念美術館学芸員)、太田佳鈴(群馬県立近代美術館学芸員)×当館学芸員 | 38 | 椿椿山展 |
| 2 | 6月24日 | 対談「ポローニャ国際絵本原画展秘話」 デアンナ・ベッルーティ(ポローニャ展担当)×当館館長 | 38 | 2023イタリア・ポローニャ 国際絵本原画展 |
| 3 | 7月16日 | トークイベント「2023ポローニャ展入選者に聞く」 2023ポローニャ展入選者×当館館長 | 41 | |
| 4 | 8月12日 | 対談「2023ポローニャ・チルドレンズ・ブックフェア総復習」 広松由希子(絵本評論家)×当館館長 | 46 | |
| 5 | 12月3日 | トークイベント「イタリアのさわる絵本とコンクール”Tocca a te”への挑戦」 ピエトロ・ヴェッキアレツリ(イタリア全国視覚障がい者支援施設連盟)・森泉文美(ポローニャ展コーディネーター) | 33 | |
| 6 | 3月23日 | 対談「シュルレアリスムと東京・京都」 伊藤佳之(福沢一郎記念館)×清水智世(京都文化博物館学芸員) | 49 | シュルレアリスム展 |
| 7 | 4月1日 | スライドトーク | 当館学芸員によるスライドトーク | 椿椿山展 |
| | 4月9日 | スライドトーク | | |
| 8 | 9月2日 | ギャラリートーク | 当館学芸員によるギャラリートーク | 狩野派以外学習帳 |
| | 9月23日 | ギャラリートーク | | |
| 合 計 | | | 389 | |

3 技法講座・教室・各アトリエ

| No. | 事業名 | 内 容 | 講 師 | 実施回数 | 人員 |
|-----|---|--|--|--|-------|
| 1 | ワークショップ 「手で読むお話:だれでも読めるさわる絵本」 | 講義と実技を通して「さわる絵本」について学ぶ三日間の集中講座。基本的な考え方や制作方法を学び、ベースとなる白紙の本を用いてオリジナルのさわる絵本を制作する。(対象:高校生以上) | ピエトロ・ヴェッキアレツリ(イタリア全国視覚障がい者支援施設連盟) | 6月29、30、7月1日 (全3日間) | 19 |
| 2 | ワークショップ 「しかけ絵本をつくろう Part2」 | ページ全体に大きく広がるしかけを学び1冊の絵本制作を行う。(対象:小学生) | 岡村志満子 (グラフィックデザイナー、絵本作家) | 7月26、27、29日 (全3日間) | 11 |
| 3 | ワークショップ 「大好きな絵本から自分自身を知り、自分ならではの絵本をつくらう」 | 絵本について学び、それぞれの絵本を制作する講座。(対象:中高生) | なかむらしんいちろう (絵本作家、日本児童教育専門学校専任講師) | 8月2日 (全1日間) | 5 |
| 4 | こどもアトリエ | 幼児(3歳)から小学生がさまざまなジャンルのアーティストによる指導のもと親子で楽しみながら造形体験をするワークショップ。 | 山田和明、のぐちようこ、むらかみひとみ、工藤あゆみ、前川明子、まえだよしゆき | 4月23日、5月21日 7月9、30日、12月10日、3月10日 (1日2回×6日) 全12回 | 339 |
| 5 | 夏のアトリエ | イラストレーターを対象に、絵本制作の総合的・専門的な指導を行う。 | シドニー・スミス (絵本作家) | 9月12日～9月16日 (全5日間) | 20 |
| 6 | ワークショップ | 「古美術を楽しむワークショップ」 | 当館学芸員 | 9月9日 | 18 |
| | | 予習「シュルレアリスムと日本」展 | | 1月6日 | 16 |
| | | 制作のお話とコラージュのワークショップ | | ユアサ・エボシ(画家) | 3月16日 |
| 合 計 | | | | | 446 |

4 美術鑑賞教室

| No. | イベント名 | 内容・講師 | 実施月日 | 参加人員 | 開催展覧会 |
|-----|-------------------------|---|--------|------|-----------------------|
| 1 | 小学生鑑賞教室 (志村第二小4年生) | 内容:児童・生徒が美術作品を美術館で実際に見ることで、興味を引き出し、作品の美しさや面白さを感じる機会とする。 講師:当館学芸員 | 6月20日 | 81 | 2023イタリア・ボローニャ国際絵本原画展 |
| 2 | 小学生鑑賞教室 (上板橋第二小4年生) | | 6月20日 | 68 | |
| 3 | 小学生鑑賞教室 (加賀小4年生) | | 6月21日 | 80 | |
| 4 | 小学生鑑賞教室 (板橋第二小1~6年生) | | 7月13日 | 200 | |
| 5 | 中学生鑑賞教室 (中台中美術部) | | 7月21日 | 27 | |
| 6 | 小学生鑑賞教室 (下赤塚小5年) | | 9月15日 | 88 | 狩野派以外学習帳 |
| 7 | 保育園鑑賞教室 (麦の子保育園) | | 9月27日 | 13 | |
| 8 | 小学生鑑賞教室 (志村第一小3年生) | | 11月22日 | 57 | 展覧会のちよつ といい話 |
| 9 | 小学生鑑賞教室 (志村第四小5年生) | | 11月24日 | 116 | |
| 10 | 小学生鑑賞教室 (中根橋小5年生) | | 11月28日 | 59 | |
| 11 | 小学生鑑賞教室 (向原小3年生) | | 12月1日 | 58 | |
| 12 | 中学生鑑賞教室 (板一中特別支援学級) | | 12月8日 | 13 | |
| 13 | 幼稚園鑑賞教室 (松月院幼稚園) | | 12月13日 | 35 | |
| 14 | 小学生鑑賞教室 (緑小3年生) | | 12月19日 | 58 | |
| 15 | 小学生鑑賞教室 (小学校図工部会教員) | | 12月19日 | 20 | |
| 16 | 中学生鑑賞教室 (高一中特別支援学級) | | 12月21日 | 18 | |
| 17 | 保育園鑑賞教室 (しらすぎ保育園) | | 12月26日 | 45 | |
| 18 | 中学生鑑賞教室 (高一中美術部) | | 12月26日 | 7 | |
| 19 | 保育園鑑賞教室 (にじいろ保育園) | | 12月27日 | 13 | |

| | | | | | |
|----|----------------------|---|-------|------|-----------|
| 20 | 小学生鑑賞教室 (三園小6年生) | 内容:児童・生徒が美術作品を美術館で実際に見ることで、興味を引き出し、作品の美しさや面白さを感じる機会とする。 講師:当館学芸員 | 2月6日 | 104 | 小・中学校作品展 |
| 21 | 小学生鑑賞教室 (桜川小3年生) | | 2月7日 | 104 | |
| 22 | 小学生鑑賞教室 (三園小5年生) | | 2月8日 | 86 | |
| 23 | 小学生鑑賞教室 (下赤塚小4年生) | | 3月7日 | 102 | シュルレアリスム展 |
| 24 | 小学生鑑賞教室 (下赤塚小4年生) | | 3月8日 | 91 | |
| | | 合 計 | 1543 | | |
| | | (内訳) | 児童・生徒 | 1406 | |
| | | | 引率 | 137 | |

令和7年度 年間展示計画

| 会 期 | 展 覧 会 名 | 概 要 | 料 金 |
|---|--------------------------------------|---|-----|
| 3月8日(土) ～ 4月13日(日) 【32日間】 | グレート! 黒 江戸絵画のいろいろ | 色彩の中で「黒」は何にも染まらない特異な存在といえます。本展では、黒色に着目することで、江戸絵画の表現の豊かさとその魅力に迫ります。夜の情景を描いた作品や、一部の人に受容された黒を用いた特異な表現などから、黒の多彩な世界をお楽しみください。 | 有料 |
| 4月26日(土) ～ 6月15日(日) 【44日間】 | 館藏品展 あの時の風景 特集展示 あの風景を見つめる目 | 大正・昭和と戦争の時代を挟んで東京の街は大きく変化しました。本展では実際の風景に加え、シュルレアリスムなどの影響を受け、実在しない風景を描いた画家たちの作品、そして特集展示では、それらを描いた画家たちの自画像、肖像画をまとめてご紹介します。 | 無料 |
| 6月27日(金) ～ 8月11日(月・祝) 【40日間】 | 2025イタリア・ボローニャ国際絵本原画展 | 今回で開催59回目を迎えるイタリア・ボローニャ市で毎年開催されている世界最大の規模を誇る絵本原画コンクール。世界中の新人イラストレーターの登竜門とされている国際コンクールの入選作品を展示します。板橋では45回目を迎えます。 | 有料 |
| 8月23日(土) ～ 9月28日(日) 【32日間】 | 館藏品展 狩野派の中の人 | 狩野派は、日本美術史における最も大きな流派であり、約400年もの歴史があります。本展覧会では、狩野派に親しめるよう、絵師の人柄が伝わるエピソードや関係性を示しつつ作品を展示します。また、特集展示として近年新たに寄贈された作品5点をお披露目いたします。 | 無料 |
| 10月9日(日) ～ 11月2日(日) 【19日間】 | 区民文化祭 | 区民書道展 [10/9～10/12] 4日 美術家作品展 [10/15～10/19] 5日 区民美術展 [10/22～10/26] 5日 書家作品展 [10/29～11/2] 5日 | 無料 |
| 11月8日(土) ～ 1月12日(月・祝) 【52日間】 | 終戦80年 戦争と子どもたち(仮称) | 戦時下に子どもを描いた作品、子どもたちに向けて描かれた絵本、教科書、紙芝居といった紙作品、加えて子どもたちが戦時下の生活を描いた作品などをご紹介します。子どもをめぐる「美術」を通じ、画家たちが激動の時代の中で子どもたちに向けていた眼差しとはどのようなものであったかを検証します。 | 有料 |
| 1月20日(火) ～ 2月23日(月・祝) 【28日間】 | 区立小・中学校 作 品 展 | 中学校作品展 [1/20～2/3] 13日 小学校児童作品展 [2/7～2/23] 15日 | 無料 |
| 2月20日(金) ～ 2月23日(月・祝) 【4日間】 場所:成増アクトホール | 佐藤太清記念 中学生絵画展 | 佐藤太清記念青少年美術奨励基金条例に基づき、全国の中学生の絵画作品を広く公募し、展示。また京都府福知山市が全国の高・大学生から公募した絵画作品の巡回展を同時開催します。 | 無料 |
| 3月7日(土) ～ 4月12日(日) 【32日間】 | 焼絵展(仮称) | 熱した火箸や鏝を紙や絹などに押し当て、絵画や文字を焦がして表現する技法「焼絵」を初めて本格的に取り上げた展覧会です。江戸時代には、藩主や家老の間で流行し、浮世絵師や狩野派の表絵師もこの技法を試みました。日本をはじめ、優れた作品が展開した中国・朝鮮の焼絵も紹介し、その美と制作背景に迫ります。 | 有料 |

グレート！黒

江戸絵画のいろいろ

趣 旨 日本絵画に必要不可欠な「黒」。多くの方が絵画を楽しむようになった江戸時代には、黒を用いた幅広い表現の作品が生まれました。

本展では、江戸絵画のいろいろな「黒」に焦点を当てます。例えば、黒の多様な表現を楽しむことができる主題として「夜」があげられます。墨の施し方や技法などによる絵師の創意工夫をお楽しみください。

また、黒にはどのようなイメージがあったのでしょうか。背景を黒く塗りこめた作品や、浮世絵における黒を用いた特異な表現、美人画などから「中国的」「雅」「美」などの象徴性を探ります。

さらに、より多くの人に「黒」と江戸絵画を楽しんでいただくため、普段の美術館ではなかなか体験できない暗闇の中でわずかな灯りとともに作品を鑑賞するコーナーも設置予定です。

会 期 令和7（2025）年3月8日（土）～4月13日（日）
〔32日間〕

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

休館日 月曜日

主催・会場 板橋区立美術館、東京新聞

観覧料 一般650円、大学生450円、高校生以下無料

関連イベント 講演会、ギャラリートーク、小学生鑑賞教室

展示点数 屏風、掛軸、版本など約50点

館蔵品展 あの時の風景

特集展示 あの風景を見つめる目

趣 旨 大正・昭和と戦争の時代を挟んで東京の街は時代と共に大きく変化しました。実際の風景を描くことはもちろんのこと、シュルレアリスムなどの影響を受け、実際にはありえない風景を画面の中に作り上げた画家たちもいます。本展では板橋区立美術館の所蔵作品、寄託作品の中から時代を象徴する風景を描いた作品をご紹介します。

本展は昨年度、新たに寄託された長谷川利行が描いた1930年代の東京の情景から始まります。利行は銀座、新宿などモダンな都市文化が花開く東京の喧騒を描きました。しかし彼が板橋の養育院（現在の東京都健康長寿医療センター）で亡くなる1940年頃には東京の街も軍事色に染まっていったのです。その頃から日本は本格的な総力戦体制に入り、軍事機密に関連することから屋外でのスケッチなども禁じられていきます。その頃に流行したシュルレアリスムの影響を受けて描かれた風景は、戦時色が一層濃くなった日本に暮らす画家たちのいま・ここからの逃避願望も重ねられているように見えてきます。そして戦後、高度成長期を迎える日本の新たな風景を画家たちは描き、そこに蔓延る問題をも浮き彫りにしたのです。画家たちが時代と対峙し、様々な想いを託した「風景」から見えてくるものを読み解きます。

また、同時開催の特集展示では、変わりゆく風景を眺め、描き表した画家たち自身のまなざしに着目し、当館の所蔵作品、寄託作品の中から、画家たちの自画像、肖像画をまとめてご紹介します。

会 期 令和7（2025）年4月26日（土）～6月15日（日）〔44日間〕

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

休 館 日 月曜日

主催・会場 板橋区立美術館、東京新聞

観 覧 料 無料

関連イベント 講演会、ワークショップ、ギャラリートーク、小学校鑑賞教室

展示点数 油彩画、水彩画、デッサン、他、約90点

「2025 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

趣 旨 イタリアのボローニャで毎年児童書専門のブックフェアが行われます。本展はこのブックフェアが主催する子どもの本のイラストレーションのコンクールの入選作品を紹介するものです。国籍の異なる5人の審査員は毎年入れ替わり、多様性を重視して選考されます。また、出版・未出版を問わず応募できるため新人作家の登竜門としても知られ、多くの絵本作家を輩出してきました。

板橋での巡回は2025年で45回目となります。来場者には若者や家族連れも目立ち、またイラストレーターや出版関係者が多く訪れることも本展の特徴です。会期中には子どもや作り手に向けた講座やワークショップも予定しています。

会 期 令和7(2025)年6月27日(金)～8月11日(月・祝)
〔40日間〕

開館時間 9:30～17:00 (入館は16:30まで)

休 館 日 月曜日 但し7月21日(月・祝)および8月11日(月・祝)は開館し、7月22日(火)は休館

主催・会場 板橋区立美術館、
JBBY (一般社団法人日本国際児童図書評議会)

観 覧 料 一般900円、大学生600円、高校生以下無料

関連イベント ワークショップ、講演会、小学校の鑑賞教室

展示点数 入選作品約400点

巡回予定 西宮市大谷記念美術館、石川県七尾美術館

館蔵品展 ^{なか}狩野派の中の人

趣 旨 狩野派は、日本美術史における最も大きな流派であり、約 400 年もの歴史があります。その中でも江戸狩野派には、将軍にお目見えが許された奥絵師が四家あり、表絵師は十五家、さらに町狩野と呼ばれる人々まで、膨大な数の絵師が属していました。

狩野派ほど絵師の数が多いと、名前や画風、活躍した時代、奥絵師、表絵師、家の系譜など、彼らの基本情報を頭に入れることも苦勞します。

本展覧会では、狩野派に親しめるよう、絵師の人柄が伝わるエピソードや関係性を示しつつ作品を展示します。生真面目な人、親ばかな人、お腹が弱い人、家族関係、ライバル関係…といったように、絵師の性格や人間模様とともに、当時の評判や後世に伝わる評価などもご紹介します。

また、特集展示として近年新たに寄贈された作品 5 点お披露目いたします。

会 期 令和 7 (2025) 年 8 月 23 日 (土) ~ 9 月 28 日 (日) [37 日間]

開館時間 9:30~17:00 (入館は 16:30 まで)

休 館 日 月曜日 (ただし 9 月 15 日は開館し、16 日休館)

主催・会場 板橋区立美術館

観 覧 料 無料

関連イベント 講演会、ギャラリートーク、小学生鑑賞教室

展示点数 屏風、掛軸など約 50 点

「区民文化祭」

趣 旨 広く区民の美術・書道の普及、発展を図るため、区民参加による展覧会を開催します。

会 期 令和7（2025）年10月9日（木）～11月2日（日）〔19日間〕

（1）区民書道展 10月9日（木）～10月12日（日）〔4日間〕

（2）美術家作品展 10月15日（水）～10月19日（日）〔5日間〕

（3）区民美術展 10月22日（水）～10月26日（日）〔5日間〕

（4）書家作品展 10月29日（水）～11月2日（日）〔5日間〕

主 催 板橋区

共 催 板橋区文化団体連合会、板橋区書道連盟、板橋区美術家連盟、
（公財）板橋区文化・国際交流財団

会 場 板橋区立美術館

観 覧 料 無 料

「終戦 80 年 戦争と子どもたち」(仮称)

趣 旨 今から約 80 年前、日本の戦時下を生きる子どもたちを画家たちはどのように描いたのでしょうか、そして当時の子どもたちはどのような芸術に触れていたのでしょうか。

戦争の時代にあっても子どもたちは生まれ育ち、画家たちはその姿を絵にしました。画材が配給制となり、発表や表現にも制限が加えられる状況であっても、画家たちは自らの子どもたちを希望に満ちた存在として描き残しています。

しかし、また同時に子どもたちは生まれながらにして「少国民」として育まれる存在でもありました。子どもたちに向けた絵本、紙芝居、教科書、おもちゃといった大人が提供するものはもちろんのこと、子どもたちが描く児童画のなかにも戦況が反映されています。

戦後 80 年にあたる 2025 年に開催する本展では、戦時下に制作された子どもを描いた作品、子どもたちに向けて描かれた絵本、教科書、紙芝居といった紙作品、加えて子どもたちが戦時下の生活を描いた作品などをご紹介します。これらの子どもをめぐる「美術」を時代背景とともに紹介することで、画家たちが激動の時代の中で子どもたちに向けていた眼差しとはどのようなものであったかを検証します。

会 期 令和 7 (2025) 年 11 月 8 日 (土) ~
令和 8 (2026) 1 月 12 日 (月・祝) [52 日間]

開館時間 9:30~17:00 (入館は 16:30 まで)

休 館 日 月曜日

主催・会場 板橋区立美術館、東京新聞

観 覧 料 一般 900 円、大学生 450 円、高校生以下無料

関連イベント 講演会、シンポジウム、ギャラリートーク、小学校鑑賞教室

展示点数 油彩画、水彩画、彫刻、デッサン、絵本、紙芝居、他、約 120 点

「区立小・中学校作品展」

趣 旨 小・中学校における書道・美術・図工学習の成果を展示し、広く
区民に鑑賞の機会を設けます。

会 期 令和8（2026）年1月20日（火）～2月23日（月・祝）〔28日間〕

（1）中学校美術展 1月20日（火）～2月3日（火）〔13日間〕

（2）小学校児童作品展 2月7日（土）～2月23日（月・祝）〔15日間〕

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

会 場 板橋区立美術館

観 覧 料 無 料

実施団体 板橋区教育委員会
板橋区立中学校教育研究会
板橋区教育会
板橋区立中学校教育研究会国語科研究部
板橋区立中学校教育研究会美術科研究部
板橋区教育会書写研究部
板橋区教育会図工研究部

「佐藤太清記念中学生絵画展」

趣 旨 青少年の美術教育の一層の充実を図るため、佐藤太清青少年美術奨励基金条例に基づき、全国の中学生の絵画美術作品を広く公募し、「佐藤太清記念 中学生絵画展」を開催します。
令和7年度で第24回目の開催となります。
また、京都府福知山市が全国の高校生・大学生から公募した絵画作品を展示する「佐藤太清賞公募美術展」の巡回展を同時に開催します。

会 期 令和8(2026)年2月20日(金)～2月23日(月・祝)
【4日間】

展示構成 「中学生絵画展」 (中学生) 42点程度
・佐藤太清賞 1点
・板橋区長賞 1点
・特 選 10点程度
・入 選 30点程度
※それぞれに賞状と記念品を授与します。

「佐藤太清賞公募美術展」-福知山市分- 67点程度
・絵画の部(高校生)
佐藤太清賞 3点
特 選 9点程度
入 選 23点程度
・日本画の部(大学・専門学生)
佐藤太清賞 1点
特 選 3点程度
入 選 26点程度

※特選作品の中から各1点に板橋区長賞を授与します。

主 催 板橋区立美術館

会 場 成増アクトホール

協 力 京都府福知山市

観 覧 料 無 料

「^{やきえ}焼絵展」(仮称)

趣 旨 「焼絵」とは、火筆画や焦画、烙画などとも呼ばれる、熱した火箸や鑊を紙や絹などに押し当て、絵画や文字を焦がして表現する技法です。色調は茶から黒に近い色まで展開し、線描から点描、ぼかしといった水墨の筆法も巧みに再現されています。

江戸時代には、山上藩主の稲垣定淳（如蘭、1762～1832）をはじめ、藩主や家老クラスの間で流行しました。その根底には、質素儉約を推奨する時世が反映されているとの推測もあります。さらに、葛飾北斎の弟子と言われる北鼎如蓮など浮世絵師にも名手が現れ、狩野派の表絵師である狩野梅雲は墨画に焼絵を組み合わせることを試みました。また、大田南畝は中国人と焼絵問答を行い、朝鮮通信使により烙画（朝鮮における焼絵の呼び名）が制作されるなど、焼絵を通じた国際交流も行われました。

本展では、これまでほとんど紹介されることのなかった焼絵について、その美と制作背景について追及します。

会 期 令和8（2026）年3月7日（土）～4月12日（日）【32日間】

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）

休 館 日 月曜日

主催・会場 板橋区立美術館、毎日新聞社

観 覧 料 一般900円、大学生600円、高校生以下無料

関連イベント 講演会、ワークショップ、小学生鑑賞教室

展示点数 屏風、掛軸 など約70点

令和7（2025）年度教育普及事業

一般向け美術技法講座・教室

| 講座名 | 内容 | 回数 |
|-----------------|--|----|
| 館蔵品展 ワークショップ | 館蔵品展の開催に合わせて、作品に親しむためのワークショップを開催する。 (古美術2回、近現代で1回を予定) | 3 |
| 小学生対象講座 | 小学生を対象とした、しかけ絵本づくりを学ぶ企画。(3日間で1回) | 1 |
| 中・高生対象講座 | 中・高生を対象とした、絵本づくりを学ぶ企画。(1日で1回) | 1 |
| 高校生以上対象講座 | 高校生以上の一般を対象に、しかけ絵本等様々な技法を学ぶ企画(3日間で1回) | 2 |

子ども対象事業

| 講座名 | 内容 | 回数 |
|---------|------------------------------------|----|
| こどもアトリエ | 3歳から小学生の家族対象。アーティストとともに親子で造形体験をする。 | 12 |

使用料・手数料改定について

板橋区では、使用料・手数料について原則として4年毎に見直しを行っております。
美術館、講義室・アトリエ、アートギャラリーにおきましても、令和7年4月より、
下記のとおり観覧料等を改定することといたしました。（広報いたばし11月23日号にて周知）

【観覧料】

【新】

| | 個人 | 団体 |
|----------------------|-----|-----|
| 一般 | 900 | 600 |
| 大学生 | 600 | 400 |
| 学齢に達しない者、小学生、中学生、高校生 | 0 | 0 |

【旧】

| | 個人 | 団体 |
|---------|-----|-----|
| 一般 | 650 | 450 |
| 高校生、大学生 | 450 | 300 |
| 小学生、中学生 | 200 | 100 |

※学齢に達しない者は無料

【講義室・アトリエ】

【新】

| | 午前 | 午後 |
|------|-------|-------|
| 講義室 | 2,700 | 3,100 |
| アトリエ | 1,300 | 1,500 |

【旧】

| | 午前 | 午後 |
|------|-------|-------|
| 講義室 | 1,900 | 2,200 |
| アトリエ | 940 | 1,100 |

【成増アートギャラリー】

【新】

| | 使用料（1日） |
|--------|---------|
| ギャラリーA | 13,900 |
| ギャラリーB | 13,700 |
| ギャラリーC | 5,900 |

【旧】

| | 使用料（1日） |
|--------|---------|
| ギャラリーA | 10,300 |
| ギャラリーB | 10,200 |
| ギャラリーC | 4,200 |

現行の使用料・手数料は、受益者負担の適正化や区民負担の公平性を確保する観点から、原則として4年に一度見直しを行っていますが、前回（令和2年度）は新型コロナウイルス感染症の影響により見送ることとなり、区としては今回8年ぶりの改定となりました。改定にあたっては、「経営革新計画」に位置付けられている受益者負担の適正化の推進に向け、経営革新本部設置要綱に基づき「使用料・手数料検討会」を設置し検討されました。